

2018年9月20日

国産 BIM 建築設計システム 『**GLOOBE 2019**』**2018年10月17日発売**

～「BIM 確認申請」への対応を目指した機能強化と、3D 点群データとの合成を実現～

福井コンピュータアーキテクト株式会社

福井コンピュータアーキテクト株式会社(本社:福井県坂井市、代表取締役社長:佐藤 浩一)では、BIMモデルによって審査を受ける建築確認申請(以下、BIM確認申請)の対応を目指した機能強化と、UAV(ドローン)などで取得した3D点群データとの合成を実現した国産BIM建築設計システム「GLOOBE 2019」を、2018年10月17日に発売いたします。

「GLOOBE 2019」の概要

「GLOOBE」は、店舗やビルといった戸建住宅以外の建築物を主な対象としたCADシステムで、日本独自の設計手法や建築基準法への対応など、国内における建築物設計に最適化された純国産のBIM建築設計システムです。

国内の建築業界におけるBIMの活用が始まってから約10年が経ち、建築設計の概念が大きく変革している中、建築確認審査機関と大手建設会社や設計事務所などが協力し、「BIM確認申請」の実運用を目指した取り組みが行われています。「BIM確認申請」は、申請者と確認検査機関の双方にとって様々なメリットがあるとされ、その実現が期待されています。

今回発売する新バージョンでは、「GLOOBE」で作成されたデータによる「BIM確認申請」を可能にする為の機能強化を図っております。また、土木業界においてこの数年で広く普及した、UAV(ドローン)やレーザースキャナで取得した現況3D点群データとの合成を実現し、土地形状や周辺の既存建造物の状況も踏まえた設計が可能となっております。



主な新機能

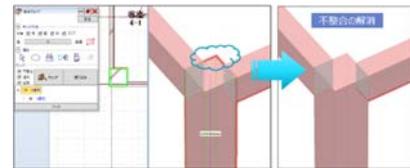
- 「BIM確認申請」対応機能強化

- 建築基準法の機能と自動作図機能を生かした機能追加や拡張を行い、日本国内仕様を強化。
- 法的区画の性能編集コマンドを追加し、柱・壁・建具の区画種別情報の確認と編集が可能。



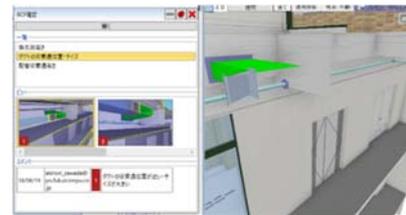
- モデル比較の拡張

- GLOBEのモデル（意匠）と構造モデル（ST-Bridge）・施工モデル（IFC）のデータを合成し、柱、壁、梁、スラブの不整合チェックが可能。



- BCF※ファイルの読み込み（※BIM Collaboration Format）

- IFC ファイルを利用するユーザーの相互コミュニケーションを容易にするためのフォーマットに対応。
- IFC 変換の頻度が減り、作業時間短縮を実現。



- 4Dシミュレーションの拡張

- 工事区分（施工ステップ）ごとに色分け表示した状態や、指定日での施工状況を表示した状態で、データの編集が可能。



- 3D点群データ読み込み

- 周辺地形の点群の利用、既存構造物の点群の重ね合わせなど、点群とBIMデータを合成し様々な検討やプレゼンテーションを実現。
- 読み込んだ点群データは、レンダリング（CGパース）やVRにも出力可能。



- 景観地形データの読み込み

- 地理院地図が公開する標高タイルを読み込み、正確な地形データと写真画像によるリアルな景観を表現可能。



その他、お客様のご意見・ご要望をもとに多数改良を加え、より使いやすくなっております。

● 同時発売「GLOOBE VR Ver.3」

- VRを体験しながら距離の計測や、スナップショットなどの機能強化を実装。
- 対応デバイスとして、HTC Vive、Oculus Riftに続き、新たにWindows MR※に対応。

※ マイクロソフト社のバーチャルコンテンツのためのプラットフォーム「Windows Mixed Reality」の略称。



● 発売日

- 2018年10月17日（水）

● 価格（税別）

- GLOOBE 2019 基本：¥144,000／年間（月払い可）※その他オプションあり
- GLOOBE VR Ver.3：¥420,000／年間（月払い可）

● このリリースに関するお問い合わせは下記までお願いします。

- 福井コンピュータアーキテクト株式会社 J-BIM 推進室
Tel：0776-67-8850 福井県坂井市丸岡町磯部福庄 5-6
ホームページ：<https://archi.fukuicompu.co.jp/>